

“孝情の涙”を相続し、天に勝利を奉献しよう!!

二世圏祝福の勝利に向け、全国責任者インターネット会議

天宙聖和 5周年に挙行される祝福式（9月7日）まで残り3カ月となった6月7日、「二世圏祝福推進のための全国責任者インターネット会議」が東京・渋谷の松濤本部を中心に全国各地の教会を結んで行われ、全国の牧会者、婦人代表のほか、二世圏祝福に携わる教育担当者など約1500人が参加しました。

竹内啓晃青年学生局長の司会で始まった会議では、最初に徳野英治会長が「（天宙聖和 5周年に際し）真のお母様が最も喜ばれることは何でしょうか。9月7日に行われる天地人真の父母天宙祝福式において、日本から二世青年圏の新郎新婦3000人で、会場となる清心平和ワールドセンターのアリーナ席を埋め尽くすことです」と強調。「お母様に笑顔になって頂くことを目標に、カウントダウンが始まった残された90日、牧会者が中心となって頑張っていきましょう」と呼び掛けました。

続いて、田中富広副会長は「真のお母様をお迎えして5月に行われた東京1万名大会における二世圏の活躍を通して、私たちの教会の最大のブランドが二世圏の存在そのものであることを痛感しました。このブランドを第2ステージに引き上げる上で、祝福を受けた二世圏のブランド価値を社会に発信していくことがこれからの大きなテーマです」と述べました。

次に阿部美樹家庭教育局長が、目標の二世圏祝福3000人に向けた現状を報告。また「親子セミナー」「夫婦セミナー」「家族セミナー」などを通じて、「家族力」を強化していくことが、二世圏祝福の推進にとっても重要であると語りました。

引き続き、櫻井正上家庭教育局副局長が「祝福推進のポイントと現場の取り組み」をテーマに報告。祝福勝利のポイントとして、①責任者の意識と関心②実務責任者の情熱と力量③スタッフ間の横断会議—を挙げました。また、第11地区福岡教区、第7地区、第6地区北長野教区の担当者から、それぞれの具体的な取り組みが紹介されました。（3、4面に関連記事）

その後、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長がメッセージを語り、「残された90日の期間において、真の父母様が流された“孝情の涙”を相続する責任者の皆さんとなってください」と訴えました。メッセージの一部を



6月7日に行われた全国責任者インターネット会議の様子（松濤本部）

抜粋し、紹介します。

「真の父母様は勝利の秘訣を私たちにすでに教えて下さいました。それがまさに『父母の心情・僕の体で、汗は地のために、涙は人類のために、そして血は天の為に流さなければならない』というみ言です。

私たちが本当に父母の心情を持つようになれば、『一人でも多く』という言葉が『最後の一人まで』という言葉に変わります。最後の一人まで探し出して復帰しようという心情を持つようになります。

私たちが権威意識を捨て、僕の体で食口たちと真の疎通と共有を実践する文化、集団知性を発揮する文化をつくるならば、私たちが抱えている全ての問題を解決することができるよう。

真のお母様は、日本の二世圏のパフォーマンスをご覧になりながら、感動して涙を流されました。



青年たちの未来を見つめ、希望にあふれる彼らの姿に涙を流されたのです。

私たちが流す涙が、真に日本の二世・青年圏のマッチングと祝福のための涙として、日本の食口たちが未だに絶対信仰できていない食口たちに向けて、そして教会から距離を置いている食口たちに対して真の涙を流すならば、その涙はまさに真の父母様が流された涙であり、その涙こそが孝情の涙です。その涙の意味を私たちは悟るようになるでしょう。

したがって、（天宙聖和 5周年までの）120日路程の主題は『孝情の涙で天宙聖和 5周年を迎えましょう!』です。これ以上、真の父母様が涙を流されることのないように、私たちが父母様に代わって涙を流そう、真の父母様が人類の為に流された“孝情の涙”を私たちが流しながら、天宙聖



第11地区の「信仰二世祝福のためのマッチング父母集会」



西東京教区の「夫婦セミナー」で手紙交換とハグを行う参加者

和 5周年を迎えようということです。

真のお母様は今回日本を訪問され、『私と一つになれば驚くべき実績と結果を収めるでしょう』というみ言を下されました。また、お母様が日本に到着されたとき、『今、真のお父様は私と共に日本に来られました』というみ言も語られました。いつも真のお父様と共にある真のお母様であられます。私たちがお母様と一つになる道こそ、父母の心情・僕の体で、汗は地のために、涙は人類のために、そして血は天のために流して下さった真の父母様と一つになる道です。この道はまさに120日路程を勝利する一番の近道なのです」

最後に、徳野会長が120日路程の勝利を誓う熱い祝祷を行い、参加者全体が心をつにしながら、インターネット会議は終了しました。

横断会議の定例化と祝福教育—第7地区

二世圏祝福推進に向けた取り組み



第7地区の「家庭交流会」(5月27日、名古屋・名城家庭教会)

二世圏の祝福推進は父母の理解がなければうまくいかないため、第7地区(東海)では父母への教育を重視するとともに、二世圏に対して祝福の意義と価値の教育を行っています。

そうした教育を進めていくためには、家庭教育部長や家庭部長、成和青年部長、祝福二世家庭会などが参加する「横断会議」の実施が不可欠です。第7地区では、横断会議を通して現場において何が必要とされているのかを各部署の責任者がリアルタイムで共有することで、様々な取り組みがスムーズに展開していています。

旧第8地区(愛知)は、家庭教育部長と家庭部長が週1回集まって横断会議を開催。祝福推進のための取り組みや効果的な教育(セミナー)について活発に意見を交わしています。

その内容を月1回行われる第7地区の家庭教育部長・家庭部長会議で共有し、さらに成和部・家庭教育部横断会議を開いて協力関係を築いていきます。

次にその内容を月1回行われる各教区の家庭教育部長・家庭部長会議に下ろし、教区の成和部・家庭教育部・家庭部の横断会議を通じて情報を共有。最後に各教会において祝福推進委員が横断会議を開き、情報共有を図っています。

二世祝福家庭交流会で“成果”

そうしたプロセスを経て生み出されたのが、「二世祝福家庭交流会」です。

第7地区では「二世祝福父母集会」を継続して行って

きましたが、当日に成果を出すことに重きを置いた結果、十分な成果に結びつきませんでした。

そこで検討を重ねていくなかで「交流会」が発案されたのです。参加者が交流を深めることに重きを置いた企画で、マッチングサイトでは分からない祝福候補者の“人柄”に触れる機会となっています。例えば、「100万円あったら何に使う?」「今ハマっていることは何?」といったお題を与え、参加者にグループで交流してもらうのです。その間、父母も別室で交流する時間を持っています。

交流の後は、和やかな雰囲気の中で一人ひとりが自己紹介をします。参加者は帰宅してから親子で話し合い、その後は父母同士が連絡を取り合っていきます。

交流会にはリピーターも多く、候補者本人も父母も負担なく参加できるよう。特に年上層の男性が参加しやすい傾向があり、20代後半から30代初めの男性が複数参加しています。3回実施し15組交流、50%の決定率となっています。

もう一つの例は、地区の家庭教育部長・家庭部長が一体となって行う一世と信仰二世のマッチング集会です。

4月と5月に1回ずつ行い、写真付プロフィールを持ち寄って会場に掲示しました。そこには、マッチングサイトに未掲載の教育段階にある候補者も多数含まれていました。次に各家庭教会の家庭部長とマッチングサポーターが、スライドを使って一人ひとりを丁寧に紹介した後、その場で交流の希望を募りました。2回の集会で18組の交流が決まり、決定率は約30%でした。

父母教育にも注力

一方、第7地区では祝福教育にも力を入れています。

各教区で開催している「二世祝福父母セミナー」は、祝福に向けて父母たちの覚醒を図るのが目的で、4月以降、父母537人が参加しています。

そのほか、「信仰二世父母セミナー」や「親子セミナー」などを行うと共に、教区ごとに祝福前教育を毎月1回8月まで行い、9月からは祝福後教育を一世・二世それぞれに行っていく方針です。

(北愛知教区家庭教育部長・坂田信之)

父母教育とグループ集会を継続—第6地区北長野教区

精誠条件と父母同士の連携を重視

第6地区(北陸信越)北長野教区では、二世圏祝福の目標を達成するため、二世圏祝福委員会メンバーを中心として、「親セミナー」や「親子セミナー」を定期的に行ってきました。父母が子女の祝福のために精誠条件を立てつつ、父母同士が集まって定期的にグループミーティングを開催。疎通と共有の文化が定着していく中で、二世圏の約婚数が増加してきました。

2011年11月28日、北長野教区では「早朝精誠訓読祈禱会」(毎日午前5時~6時)をスタート。それ以来1日も休むことなく継続し、今年5月20日に2000日を迎えました。また、5~6年前から祝福子女を持つ父母の有志が10人程度集まり、櫻井正上家庭教育局副局長の著書『二世祝福ガイドブック』の輪読会をしながら、交流を継続してきました。

このような取り組みを通して、二世圏祝福に向けての霊的な基盤づくりができてきたように思います。

「親セミナー」「グループ集会」の継続

北長野教区は、2015年からハッピーファミリープログラムを取り入れ、「親セミナー」を開催。「家庭力アップ講座」を学んだ後、参加した父母が「グループ集会」を毎月行ってきました。その結果、北長野教区では現在、13グループ65家庭がほぼ毎月、グループ集会を行っています。グループ集会では、父母同士が講義の感想を共有したり、子女たちの信仰や祝福についてディスカッションを行ったりしています。

こうした取り組みに参加している家庭の子女たちが、徐々に祝福に向かうようになっています。グループ集会が二世圏祝福の突破口になり、効果的であるとの認識から、参加する父母の数も増え、益々活発になってきています。

「新・親セミナー」を開催

2016年12月から、北長野教区では裴夢周地区長が提唱している「新・親セミナー」を開催してきました。

「新・親セミナー」では、主に女性の信仰の確立と悔い改めを促すと共に、タマルやマリヤの絶対的信仰の教訓から、血統の重要性を学びます。その上で、血統転換としての祝福結婚がいかに重要であり、その恩恵を受けた祝福二世の無原罪の血統がいかに貴重なのかを学んでいきます。

講義終了後には、参加した父母たちが子女の祝福成就を願って「40日精誠条件」を立て、「出征式」と言う自覚をもって出発していきます。40日間で不十分な場合は、第2次、第3次と継続していきます。

「新・親セミナー」と「親セミナー」による家庭教育が相乗効果を生んだ結果、北長野教区では二世祝福が進展してきました。

3つの「父母会」の継続

北長野教区には「小学生父母会」「中学生父母会」「青年父母会」の3つの父母会があります。それぞれが「父母会長」「成和部長」「家庭教育部長」を中心に、「父母主任」(小学生・中学生は学年ごと、青年部は祝福家庭会ごとに代表者が就任)が毎月集まり、「父母主任会議」を行っています。



グループ集会でディスカッションを行う父母たち

小学生・中高生の「父母会」は、父母たちが子女たちの将来の祝福を意識し準備をする時間となり、「青年父母会」は、子女たちが具体的に祝福に向かうに当たっての父母たちの教育・啓蒙の場となっています。

さらには、ほぼ毎月「父母会長団会議」を行い、家庭教育部長、成和部長、3父母会長などが参加。二世教育全般について話し合い、必要に応じて教区長が参加して、指導を行っています。

以上のように、親セミナーやグループ集会、父母会の活動等、家庭教育を地道に継続してきたことが、現在の二世圏祝福の進展につながっていると考えています。

今後もさらに内容を充実させながら、120日特別路程の目標に向かって頑張っ参ります。

(第6地区教育部長・白井民夫)

日本において愛と尊敬を受ける家庭連合に

宋総会長が北千葉教区で合同礼拝



合同礼拝の参加者（船橋中央家庭教会）

6月4日、第4地区北千葉教区船橋中央家庭教会に宋龍天総会長を迎え、北千葉教区合同インターネット礼拝が行われ、船橋中央家庭教会に集まった食口171人をはじめ、同教区全体で572人が参加しました。宋総会長は、真のお父様の聖和5周年までの120日特別路程の摂理的な意義などを力強く語り、参加者は大いに復興しました。

宋総会長のメッセージの一部を要約して紹介します。



メッセージを語る宋総会長

「VISION2020 勝利に向けた日本家庭連合の戦略において、2016、17年は長子権復帰の期間であり、私たちが日本の国民、社会、国家から愛と尊敬と信頼を受ける家庭連合として堂々と立つことを意味しています。それが実現できる摂理的な時を迎えており、私たちはそれに向かって総進軍する路程を歩んでいます。

昨年10月から2月の基元節4周年まで行われた120日路程が蘇生的なものであるとすれば、いま私たちが歩んでいるのは長成期的な路程です。この120日路程は、VISION2020を勝利できるかどうかの試金石です。天が下さったこの勝利の機会を失ってははいけません。私たちが絶対精誠を捧げ、感謝し喜びを抱きながら、全体が一つになって歩むことを天は願っておられるのです。

真の父母様が下さるみ言が一つ一つ実現していく摂理的な春を私たちは生きています。私たちは、真の父母様が宣布された心情共同体の定着を必ず成し遂げなければ

なりません。これは単なるスローガンではありません。為に生きる真の愛を実践し、すべての食口が涙を拭いて慰労し合い、痛みを共有しながら心情共同体の定着を成し遂げていきましょう。

きょうのインターネット礼拝を通して、私たちはもう一度、120日総進軍路程の重要性を悟り、決意を新たにしました。どんな困難があったとしても、私たちが天の父母様・真の父母様への絶対信仰、絶対愛、絶対服従をもって一つとなるならば、環太平洋文明圏時代において、天の驚くべき運勢と共に皆さんは勝利の先頭に立つことができるでしょう。北千葉教区が母の国・日本の先頭に立つならば、それは世界の摂理の先頭に立つことを意味します。

日本を通して成し遂げたい天の夢と願いがあるので、私たちは120日路程を歩んでいます。その意味を深く悟り、天の前に感謝を捧げながら、力強く前進していきましょう」

礼拝終了後、宋総会長は食口一家庭一家庭を温かく見送り、参加者は真の父母様の大きな愛で満たされていました。

午後は、日ごろ地域活動に携わっている家庭教会長を集めた午餐会が開催。宋総会長は一人ひとりを労いながら、「共に勝利しましょう」と激励しました。



宋総会長を見送る食口たち

1万名大会を勝利し、全国に刺激を与えよう！

徳野会長が山口教区を訪問



説教を行う徳野会長

6月2日～4日、徳野英治会長は山口教区の山口、下関、宇部の各家庭教会を訪れ、天の真の愛とみ言を送り届け、地元の教会員を激励しました。

3日、徳野会長は山口家庭教会を訪問。和やかな雰囲気の中、集まった区域長以上のメンバー20人と質疑応答をしながら、様々な観点から信仰生活のエッセンスを伝えました。参加者たちは、天の父母様・真の父母様に侍る徳野会長の心情に触れ、深い感動と多くの力を与えられました。

4日、徳野会長を迎えて下関家庭教会で山口教区特別礼拝が行われ、約150人が参加。礼拝の様子は、山口教区の他の5教会にインターネット中継されました。

礼拝は、コーラス「華」による讃美、佐野清志第9地区長の挨拶に続き、徳野会長が「孝情の真の意味を訪ねて」と題して、約80分にわたって説教を行いました。

その中で徳野会長は、5月14日に東京で開催された「孝情文化フェスティバル」で真のお母様が語られたみ言や大会の様子を具体的なエピソードを交えて紹介。その上で、VISION2020に向けて一人ひとりが持つべき姿勢について述べながら、「歴代の首相を多数輩出し、さらに現役首相の出身地であるこの山口県が1万名大会を成し遂げれば、直接的に国に影響を与えられます。他のどの都道府県よりも皆様の頑張りには価値があります！」と語り、山口教区のメンバーを鼓舞しました。



コーラス「華」による讃美

4日午後、宇部家庭教会で「先輩家庭の集い」が開かれ、777家庭をはじめ、1800家庭、6000家庭などから11家庭16人が参加しました。徳野会長は、真のお母様が先輩家庭に対して「よく生きなさい」といつも語られることを紹介。「人生の有終の美を飾ってほしい」「変わらない心で生きてほしい」と願われるお母様の心情世界を伝えました。



宇部家庭教会で開かれた「先輩家庭の集い」で

疎通と共有で健全な教会をつくろう

千葉・浦安で「全国地区事務局長・総務部長研修会」



徳野会長



李本部長



勤続 15 年以上の参加者に功労賞が贈られた



徳野会長を中心に全体で撮影

「疎通と共有で『健康な教会』づくり」をテーマに、「2017 年全国地区事務局長・総務部長研修会」が、6 月 8 日、9 日の 2 日間にわたり、千葉・浦安の一心特別教育院で行われ、130 人が参加しました。初日のプログラムは全国の教会にネット中継され、会場で参加できなかった総務部長や総務スタッフも恩恵を共有しました。

1 日目は冒頭で、総務局の小林満喜総務部長が「労務問題」と「交通事故」について報告。次に澤田拓也副局長が研修会のテーマについて、「健康な教会＝健康な総務部長であり、疎通と共有とは流れを良くすること。体内の流れを良くすることで健康になり、組織内の情報の流れをよくすることで健全な教会をつくりましょう」と語りました。

続いて南東京教区世田谷家庭教会の中丸隆総務部長が、「IoT」（モノのインターネット）導入による業務の効率化について説明。孝成家庭教会の小林博総務部長は「自己牧会プログラム」の内容を実践した結果、「食口に喜んでほしい」という動機で業務ができるようになったという証しを行いました。

そのほか、ビジネスマナーの専門家を招いてヒューマ

ンスキルの向上のための講座や家庭連合の産業医による健康改善の指導が行われました。

夕食後、李成萬本部長が「真のお母様は神様の夢を果たすために健康でなければならないとして、毎朝 30 分間散歩され、決まった時間に食事をとられるようにしておられます」というエピソードを紹介。講話後には、この日誕生日を迎えた総務部長にお母様からいただいたネクタイをプレゼントするというサプライズがありました。

2 日目は、本部各局からの報告と PC スキル向上のための講座の後、徳野英治会長が勤続 15 年以上の地区事務局長と教区・教会の総務部長 23 人を表彰しました。

続く閉講式の講話のなかで、徳野会長は「天が願う総務部長とはパソコンなどの能力以上に、アペル性と真の父母様に対する絶対信仰が重要です。教会を自分の家と見る人は主人となり、他人の家と見る人は見物人にとどまります。責任感が全然違ってきます。また自分の魂が真の父母様からずれないように日々の訓読生活を重視してください」と訴えました。

最後に徳野会長が一人ひとりと握手をして、全体が一つになって出発しました。

「孝情文化の集い」に 570 人—堺西家庭教会

6 月 4 日、南大阪教区堺西家庭教会で「孝情文化の集い in 堺西」が開催され、新規ゲストや教育段階のメンバーなど 330 人を含むおよそ 570 人が参加しました。新規ゲストが知人を 4 人連れてきたり、自らのライフワークであるボランティア活動から関係者 14 人を動員した参加者もありました。「子供が太鼓を持って踊るから見に来て！」と祖父母や親戚総勢 10 人を動員した婦人もいました。

集いでは、「天父報恩鼓」を堺西家庭教会の文化と青少年教育の重要なアイテムとして飛躍させる願いを込め、その演舞 6 曲をメインとして、コーラスや歌などを披露。小学生から大人までの 50 人が一緒に演舞をするエンディングは圧巻でした。

また朱鎮台第 8 地区長が「霊人体の健康」をテーマに基調講演。地元の国会議員も最後まで講演を聴いていました。



講演を行う朱地区長



「天父報恩鼓」の演舞

「いわき復興ファミリーフェスティバル」開催

東日本大震災で地震、津波、原発による放射線の被害を受け、今なお風評被害を受けている福島県いわき市の復興を願って 5 月 28 日、同市内の会場で「第 3 回いわき復興ファミリーフェスティバル」が開催され、約 430 人が集まりました。

オープニングでは家族「三代圏」の 4 才から 70 才まで 21 人によるダンスのほか、コーラスやマジックなどで会場は大いに盛り上がりしました。

引き続き、松波孝幸「天宙平和連合」教育局長が「世界平和は、幸せな家庭づくりから」と題して講演し、参加者は強い感銘を受けていました。全員が喜びと希望に満ちたひと時となりました。

家族「三代圏」によるダンス



講演する松波氏



西大阪教区で「ピュアラブマーチ」

晴天に恵まれた5月28日、西大阪教区豊中家庭教会は大阪府豊中市の同教会周辺でピュアラブマーチを行い、近隣の新大阪、大阪孝成の両家庭教会の教会員およそ60人を含め、全体で約170人が、豊中市のメインストリートである国道176号線に沿って30分間にわたって行進しながら、「純潔と貞操を守って幸せな家庭を築こう」などと訴えました。豊中市内でのマーチは4回目。

街を行き交う人の中には、シュプレヒコールを上げながら練り歩くマーチの物珍しさに立ち止まり、アピールの内容に耳を傾ける人もいました。

教会員の誘いで今回初めて参加した50代男性は

「あなた達は良いことやってるね」と感想を話していました。



東広島教区で「家庭再建ピュアラブマーチ」

6月4日、広島県福山市内で「家庭再建ピュアラブマーチ」が開催され、子供から大人までの約200人が、福山市中央図書館広場からJR福山駅に向かう大通りで声高らかに「結婚前は純潔を、結婚後は夫婦の貞操を守り、明るく健全な家庭を築こう」と訴えました。

約30分間の行進には、地元マスコミの取材があったり、地元の平和大使が行進に参加

したほか、通りすがりの市民からも注目を集めていました。



第8地区で教育関係者集会

6月4日、大阪市内で「第3回第8地区教育関係者集会」が行われ、現役の学校教師や学習塾経営者、将来教師を希望している大学生など20人が参加しました。

集会では、祝福二世の小学校教師が現場での実践の様子と今後の展望について発表。また、国際人の育成を目指す学園に勤務する小学校教師が多文化共生についての講演しました。グループ別のディスカッションでは、世代や学校の枠を超えて、教育に関し

て熱い議論が繰り広げられました。



富山教区で「天地人真の父母 宇宙既成祝福式」

5月28日、真のお父様の聖和5周年に向けての120日特別路程を歩む中、富山教区では李元熙教区長夫妻の主礼のもと、既成祝福・独身祝福式が挙行されました。新たに祝福家庭となった16組の新郎新婦を始め、食口一同が希望をもって再出発する機会となりました。

富山教区は、1万名基盤を造成して2020年までに真のお母様をお迎えするため、今年10月に行うファミリーフェスティバル（1200名大会）の勝利に向け、今後も教区・教会で祝福式

を行っていく方針です。



鹿児島・霧島家庭教会で韓国料理コンテスト大会

6月4日、鹿児島教区霧島家庭教会で「第55回真の万物の日記念 第2回韓国料理コンテスト大会」が行われました。大会では、南基俊教会長の祝辞、主催者挨拶に続き、司会者がコンテストのルール説明と出品料理の紹介を行い、試食の時間となりました。

コンテストは、韓国人以外というルールのもと、新規2人と教会員12人の合計14人がエントリー。腕によりをかけたトッポキやチャプチェ、チヂミ、サムゲタン、味噌チゲ、ナムルなどが会場中央のテーブルに一列に並べられました。

参加者はそれぞれの料理を皿にとって、1品1品の味をじっくり楽しみ、味、創造性、見た目などから、参加者全員が3品を選んで投票。最後に開票と表彰が行われました。

韓日の食文化交流を通して、教会に初めて来たゲストがキンパブを出品して入賞するなど、参加した全員が喜びと希望に満ちたひと時となりました。



鳥取教区でスポーツ大会

6月4日、鳥取教区は鳥取、米子、倉吉の3家庭教会対抗のスポーツ大会を行い、新規ゲスト20人含む約230人がサッカーやソフトバレーボール、「ドッチビー」（ソフトディスクを用いたドッジボール形式のゲーム）で熱戦を繰り広げました。

子供から大人まで、日頃触れ合うことの少ないメンバー同士が会話をするなど、良き交流の時間となりました。

